

日本の精神療法における支持性・都市・制度・時間感覚

—回復を「速めない」臨床の倫理

日本の精神科臨床の根底には、近代医学に逆行する
「暗黙の規範 規範」が存在します。



「治そうとしすぎない」



「急がせない」



「生活を壊さない」

これは消極的で前近代的な医療なのか、
それとも高度な倫理的選択なのか？

治療とは「何かをする」ことではなく、
「そこに居続ける」という高度な選択です。

Technique

技術

Attitude
態度

- 確立された学派やマニュアル化された統一理論ではない。

- 長年にわたって現場に沈殿してきた、態度・時間感覚・倫理的選好の集合体。

症状の変化が乏しくとも、社会的な回復が見えなくとも、関係だけは切らさずに「時間を引き受ける」専門性。

症状を「直接的に操作しない」という強い倫理的緊張感。

近代医学



制御可能性への信頼。症状を管理・排除し、介入の効果を測定する。

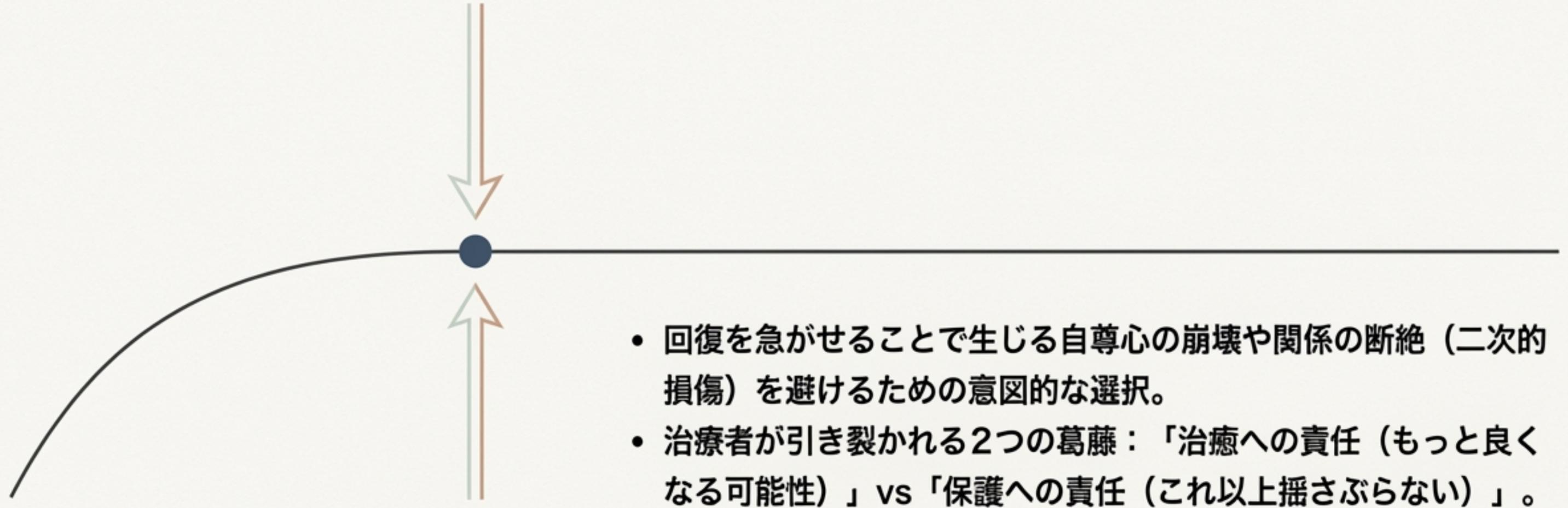
非操作性の倫理



コントロールしようとする傲慢さを手放す。
「良くなったかどうか」を評価する位置から一歩退き、患者の生きている時間を尊重する。

「あるがまま」とは安易な自己受容ではなく、不安や強迫をあえて打ち消そうとしない「不操作の倫理」である。

「慢性化を許す」とは、二次的損傷を避けるための積極的な治療的決断です。



慢性化を許すことは放置ではなく、害を最小化し、人間の脆さを正面から引き受ける重い決断。

治癒とは何かを定義せず、ただ「間（ま）」を保つという専門性。

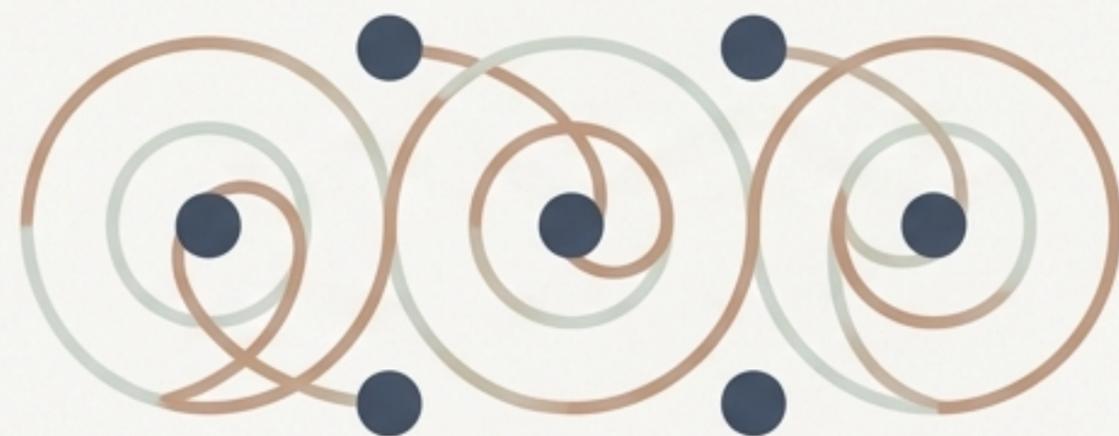
- ・解釈を急がない（「それは〇〇だからです」と言わない）
- ・回復の方向を固定しない
- ・埋めるものでも、説明するものでもなく、保たれるべき空間。

「この人がこれまで何とか生き延びてきた仕方を、壊さない。」

「語る主体」を前提とする欧米の回復モデルと、
「語らなくても共にいる主体」を守る日本の臨床。



自律的主体。人生を物語として再構成する能力。
「語ること」が中心的な行為。



前向きな物語を紡げない人々を保護する。
沈黙や反復を含んだ関係の持続。

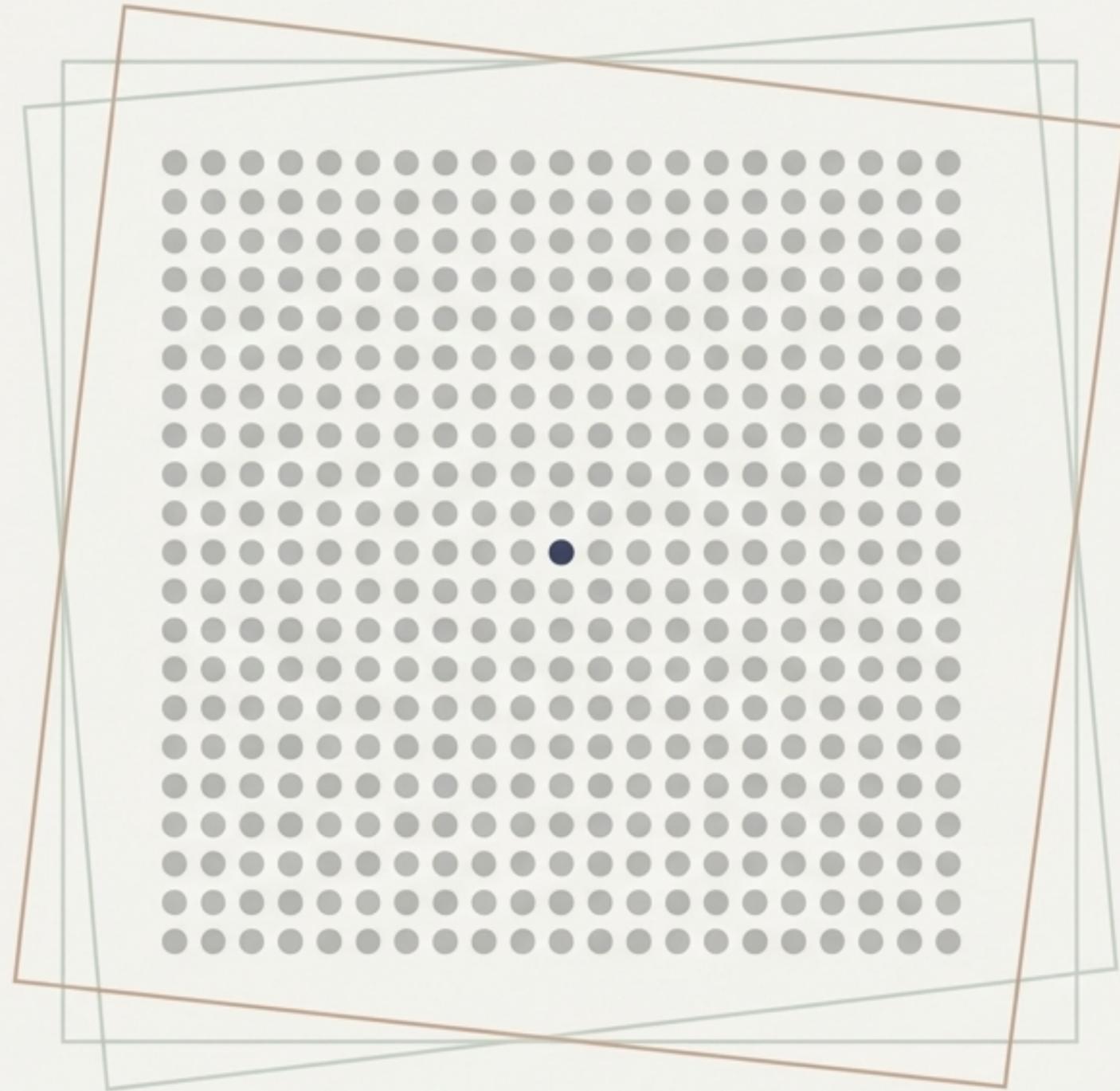
回復という言葉の背後にある「良くならなければならない」
という圧力が持つ暴力性への忌避。

この独自の臨床態度は、都市・制度・時間感覚
という3つの構造に支えられています。



日本の精神療法は、個人の技法としてではなく、
これら三者が相互に補強し合う「生態系」として成立してきた。

【都市】 匿名性と余地が、回復しきらない人を排除しない空間を提供する。

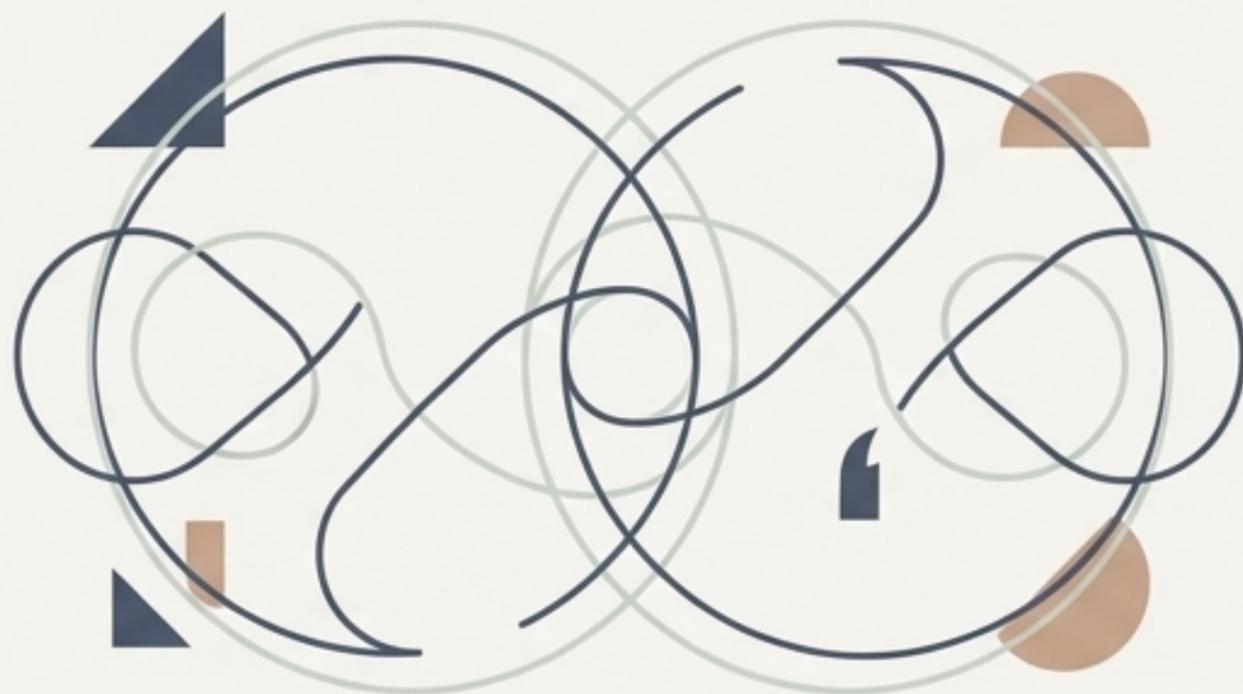


役割から一時的に降りられる緩衝地帯。

**「いつまでも治らない」ことが
逸脱として可視化されにくい。**

**誰からも注目されず、沈黙したまま
「断続的に関われる」という保護的側面。**

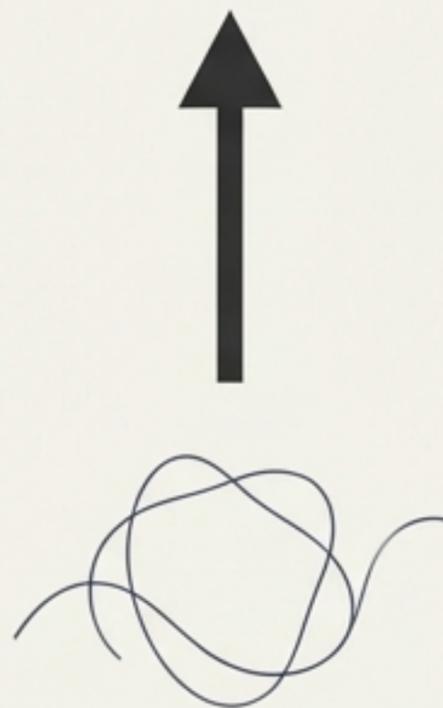
**【制度】「点数はつくが成果は要求されない」
という矛盾が、治療の余白を生んだ。**



フリーアクセス、長期通院の容認、
比較的低額な自己負担。

**制度が非効率に見える「目的のない関係」や「非目的的な関わり」を
黙認しているからこそ、「いつまでに治るか」を問われない時間が生まれる。**

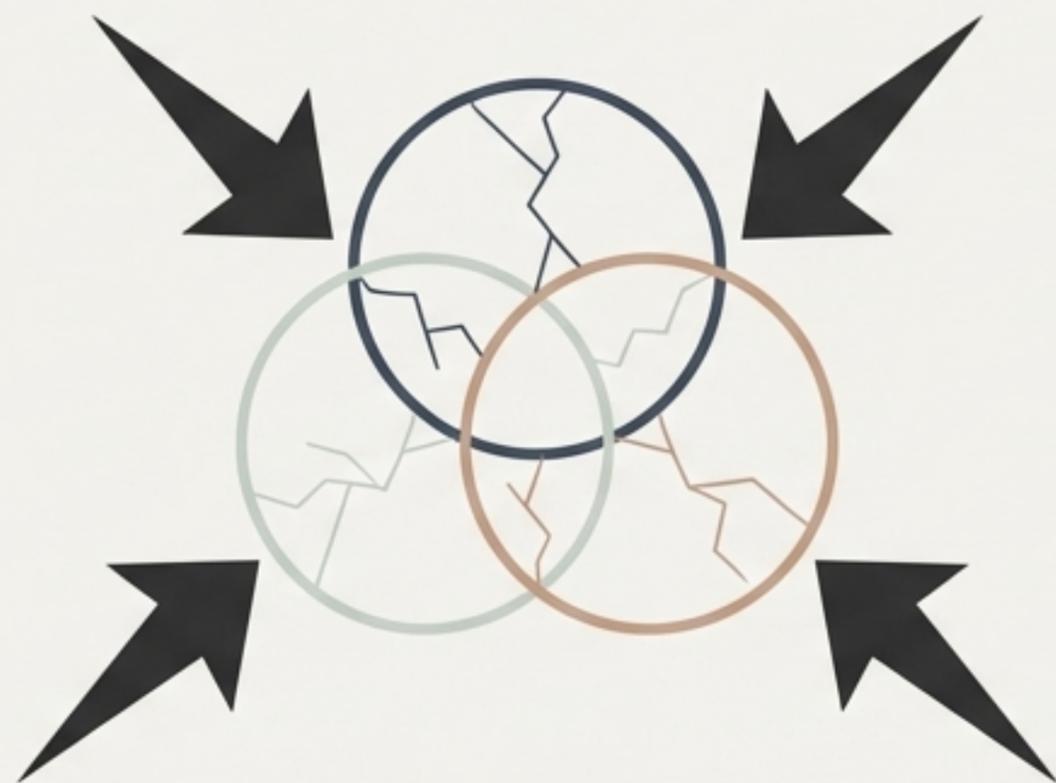
【時間感覚】 直線的な進歩を前提とせず、反復を許容する「時間哲学」。



「まあ、ぼちぼち行きましょう」

これは単なる慰めではなく、時間を治療の背景ではなく「構成要素」として扱う哲学の表明。
変化を強制せず、評価を保留し、人が自ら動き出す余地を残す。

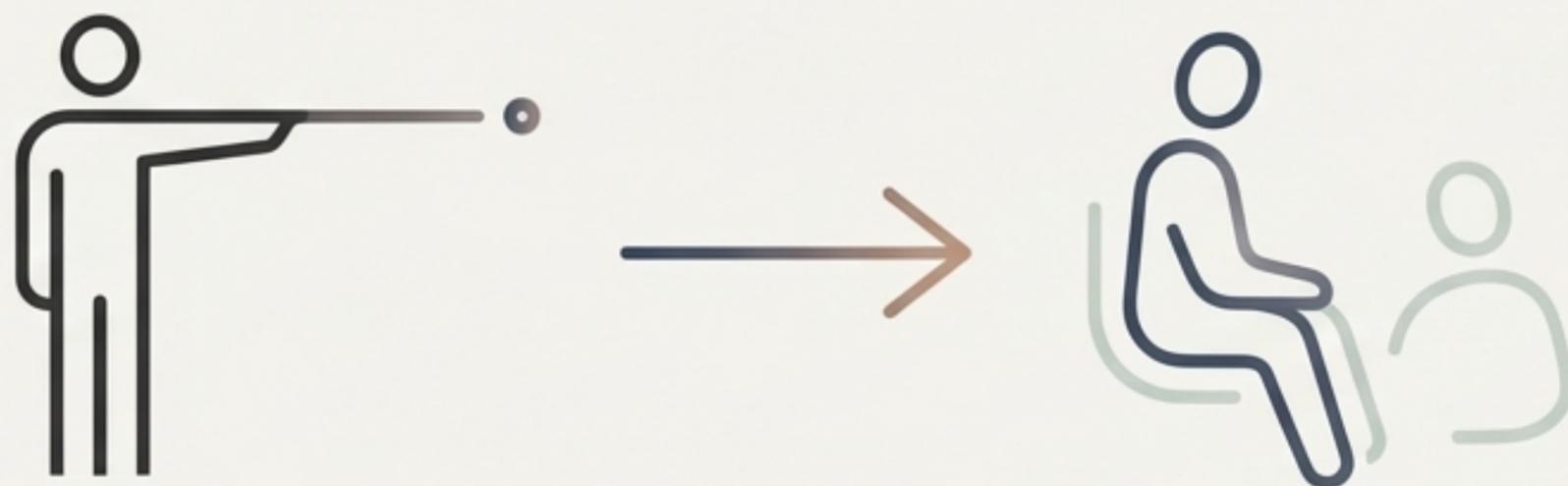
成果主義と効率化の波が、
この倫理的で脆弱な「生態系」を脅かしています。



成果主義的医療評価、短期介入モデルの輸入、医療資源の圧縮。

「治らないまま通うこと」が説明不能になりつつある。
完全に理論化すれば失われ、放置すれば切り捨てられる危機。

専門家の役割は、未来へ「導く者」から、不確実な現在に耐え「待つ者」へと転換します。



- 解釈を急がない（意味づけを先取りしない）。
- 回復の物語を完成させない。

解決のつかない時間に自らの身を投じる
「不完全さにとどまる力」こそが、専門性の核心となる。

回復を急がせない社会のために、 「何もしない支援」を制度として守る。

「よくなること」を前提にしない関係性（支援が介入しすぎない余白の確保）。

ゴールを明示しない居場所（ただ「そこにいる」ことが許される空間）。

成果を急がないプログラム（到達点やアウトカム指標に回収されない枠組み）。

「回復とは、よくなることではなく、
よくならなくても生きてよい時間を
社会が引き受けられるかという問いである。」